

## 社会学〈G01A〉

配当年次	1・2年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	中澤 秀雄・高橋 徹
文責(課題設題者)	中澤 秀雄・高橋 徹
教科書	<b>指定</b> 玉野 和志(編)『ブリッジブック社会学』[第2版]以降(信山社)

### 《授業の目的・到達目標》

社会学的なものの見方を取り入れ、社会現象に対する洞察力と想像力を鍛えることで、みなさん個々人の法学をより豊かなものにすることを目的とします。

到達目標は、教科書に登場する主要な社会学者による社会の見方の基本を理解し、これらの見方を身近な社会現象に応用できるようになることです。

### 《授業の概要》

社会学の基礎理論を押さえた教科書に沿って、社会を個々の人間の関係が織りなす網の目としてとらえていく社会学の特徴を理解したうえで、各項目を学んでいきます。

第2章から第5章までは、社会学の基礎を作ったマルクス・ヴェーバー・デュルケム・ジンメルという4人の巨人について学びます。第6章から第14章までは、その後に続く主要な社会学者の理論を学ぶことを通じて、社会学がどんな分野で、何を問題にしてきたかを理解してほしいと思います。第15章は、日本における「社会」の位置づけを考える、少し応用的な内容となります。

### 《学習指導》

本科目の学習方法としては、教科書の内容理解が第一です。内容が理解しにくい場合には、各章末尾に記載されている参考文献や、社会学事典などを活用して、キーワードや学説史的背景、具体例などについて補足的な知識を得ると、理解しやすくなります。

本課程の時間的制約から、現代社会学の主流をなしている専門社会学(家族社会学・福祉社会学・都市社会学など)については、教科書では紹介していません。これら専門的・実践的な社会学に興味がある方は浜日出夫・長谷川公一・藤村正之・町村敬志『社会学』[新版](有斐閣 New Liberal Arts Selection)等をお読み頂くと、社会学が現代社会をどのように理解し、どのようなものの見方を提示しているのか、どのように応用可能かが考察できると思います。

関連科目について：社会学は基礎的な科目であるため、他に履修しておいたほうがよい科目はありません。社会学的な見方がとくに応用される関連科目としては、政治学・刑法(犯罪学)などがあります。

### 《成績評価》

試験(科目試験またはスクーリング試験)により最終評価する。

# 社会学〈G01A〉

◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）

◎字数制限：1課題あたり2,000字程度（作成基準のとおり）

## 第1課題

① マルクスとヴェーバーは、それぞれ国家や官僚機構をどのようなものとして理解したか解説しなさい。

それを踏まえて、

② 彼らが21世紀に生きていたら、現代日本の国家と官僚機構をどのように分析するだろうか。マルクスとヴェーバーが用いた概念を織り込みながら論じなさい。できるだけ具体例を示すこと。

## 第2課題

マルクス、デュルケム、ヴェーバー、ジンメルの後1世紀を経過してなお、この四人から「社会学」の教科書が始まることに疑問を持つ社会学者は少ない。①なぜこの四者はそれほど偉大な理論家だと見なされているのだろうか。②また、19世紀から20世紀初頭にかけて四者が直面した課題は、テキスト第8章以降に登場する20世紀後半の社会学者が抱える課題と、どのような異同があるだろうか。

以上2点について、あなたの考察を展開しなさい。具体的な学説や著書、事件や事例を挙げながら論じること。

## 第3課題

社会学における「ものの見方」「分析の仕方」にはどのような特徴があるだろうか。第6章以降に登場する任意の社会学者（複数でもよい）を例にとりながら、あなたの考察を展開しなさい。自分がとりあげた社会学者が用いた概念を文中に織り込み、その概念の意味を解説しながら論じること。

## 第4課題

「不安定化する雇用」「無縁社会」「少子高齢化」など現代日本における社会問題を一つ取り上げ（あなたが「社会問題」と定義するものなら何でもよい）、「コミュニティ」「ネットワーク」「コミュニケーション」「再帰性」などテキストに登場する社会学の概念を用いながら、その問題の根本にある社会構造の歪みとは何なのか、指摘しなさい（テキストや講義の受け売りではなく、できるだけ独自の考察を展開すること）。また、どのようにすれば問題を改善できるのかについても、同様にテキストに登場する社会学の概念を用いながら論じなさい。使用した概念が最初に登場する箇所に下線をひいておくこと。

〈推薦図書〉

新 睦人・大村 英昭 他

新 睦人

長谷川 公一・浜 日出夫 他

『社会学のあゆみ』(1979 年)

『新しい社会学のあゆみ』(2006 年)

『社会学』〔新版〕(2019 年)

有斐閣

有斐閣

有斐閣 New Liberal Arts Selection